

平成29年度第2回環境審議会  
議事録

平成29年9月7日(木)

足立区役所南館12階 1205A会議室

(開催概要)

平成 29 年度第 2 回環境審議会  
議事録

会議名	平成 29 年度第 2 回環境審議会		
開催年月日	平成 29 年 9 月 7 日		
開催場所	足立区役所南館 12 階 1205A 会議室		
開催時間	午後 3 時 30 分から午後 5 時まで		
出席状況	委員現在数 15 人 出席委員数 14 人		
出席委員	田中 充	百田 真史	せぬま 剛
	ぬかが 和子	くぼた 美幸	大竹 さよこ
	戸荻 建作	小泉 俊夫	佐藤 強士
	茂木 福美	田邊 治代	長谷川 京子
	古地 八重子	石川 義夫	
事務局	環境部長、環境政策課長、ごみ減量推進課長、生活環境保全課長		
会議次第	別紙のとおり		
会議に付した議題	報告事項 1 第三次足立区環境基本計画の指標の 2016 年度の状況について 報告事項 2 平成 28 年度の区施設におけるエネルギー使用量等について 報告事項 3 平成 29 年度環境基金助成交付団体の決定について		

(会議経過と議事の要旨)

副会長	<p>まだ会長が到着していないが、定刻になったので平成 29 年度第 2 回足立区環境審議会を開会する。会長が到着するまで代わりに進行する。</p> <p>まず、配布資料の確認をお願いします。</p>
事務局	<p>事前に送付した資料は、「平成 29 年度第 2 回足立区環境審議会資料」である。本日席上には、次第、前回の審議会の議事録を配布した。不足等があれば事務局までお願いしたい。</p>
副会長	<p>本日の出席委員を確認する。委員定数 15 名、現在出席委員は 14 名であり、会議が成立していることを報告する。</p> <p>本日の議事録署名人は、小泉委員と茂木委員をお願いします。</p> <p>それでは、本日のスケジュールについて説明をお願いします。</p>
事務局	<p>本日のスケジュールについて説明する。本日の報告事項は 3 点である。審議会終了後、田中会長と百田副会長から 15 分程度のミニ講義をしていただく予定である。</p>
副会長	<p>それでは、報告事項 1 から 3 の報告をお願いします。</p>
事務局	<p>「第三次足立区環境基本計画の指標の 2016 年度の状況について」報告する。審議会資料の 1 ページ目をご覧ください。</p> <p>第三次足立区環境基本計画は 3 月に策定したところである。14 個の指標を定め、2015 年度を基準に目標を定めた。2016 年度の数値が出たので報告する。</p> <p>1 地球温暖化・エネルギー対策「1-1 エネルギーの効率的な利用」指標は、省エネルギーを心がけている人の割合で、区の世論調査に基づいた結果である。2024 年度目標が 70%で、基準年 54.6%に対し 2016 年度は 51.3%で、▲3.3%であった。</p> <p>「1-2 低炭素なエネルギーの利用拡大」、指標は区内の再生可能エネルギーの導入容量で、目標 36,000 kW、基準年 31,788 kWに対し、2016 年度は 33,818 kWで 2,030 kWの増であった。</p>

「1-3 CO2 吸収量の増大と気候変動の影響への適応」、指標は熱中症で搬送される患者数で、目標 160 人、基準年度 314 人に対し、2016 年度は 197 人で▲117 人であった。これは気候により変動する数値である。

地球温暖化対策計画で定める CO2 削減目標で「区内の CO2 排出量」について、目標が 197 万トン、基準年 255 万 8 千トンに対して 2016 年度は 242 万 7 千トンで▲13 万 1 千トンであった。

2 循環型社会の構築「2-1 廃棄物減量の推進」、指標は、1 人 1 日あたりの家庭ごみ排出量で、目標 470g、基準年 561.1 g に対し 2016 年度は 549.9 g で▲11.2 g であった。

「2-2 持続可能な資源利用への転換」、指標は資源化率で、目標が 27%、基準年 19.7%に対して、2016 年度 19.5%で▲0.2%であった。分母(ごみ量)が減ったことから、資源化率も減ったということである。

「2-3 廃棄物の適正処理」、区内のごみ量で、目標 158,400 トン、基準年 181,248 トンに対し、2016 年度は、179,700 トンで▲1,548 トンであった。

次に、2 ページをご覧ください。3 安全・安心で快適な暮らしの確保「3-1 生活環境の保全と公害対策の推進」、指標は工場等に対する公害苦情相談件数で、目標 232 件、基準年 305 件に対し 2016 年度は 10 件増加して 315 件であった。

「3-2 快適で美しいまちづくり」、指標が地域で自主的に美化活動をしている団体数で、目標 400 団体、基準年 248 団体に対して、2016 年度は 254 団体で 6 団体増加した。

4 自然環境・生物多様性の保全「4-1 自然や生物とふれあう機会の提供」指標は、生物とふれあう事業の参加者数で、目標 330,600 人、基準年 300,508 人に対して 307,651 人で 7,143 人の増加であった。

「4-2 生物多様性への理解と取組みの推進」、指標が区民参加型の生物調査の参加者数で、目標 200 人、基準年 40 人に対して 2016 年度も 40 人であった。これは、野鳥モニターの数である。

「4-3 多様な生物が暮らす自然環境の保全と創出」、指標が樹木被覆率で、目標 8.7%、基準年 8.3%に対して 2016 年度も 8.3%であった。

次に、5 学びと行動のしくみづくりで、「5-1 環境情報の発信と環境意

識の向上」指標は、環境に配慮した製品を選んで使う人の割合で、目標 20%、基準年 15.3%に対して、2016 年度 12%で▲3.3%であった。これは、世論調査の数値である。

「5-2 環境学習の推進と人材育成」指標は、環境学習プログラムに参加し、修了した人数で、目標 2,000 人、基準年 193 人に対し、2016 年度は 221 人増の 414 人だった。

「5-3 環境保全活動の拡大」指標は、エコ活動ネットワーク足立 (EANA) の登録団体が実施した自主的な環境保全活動数で、目標 250 回で、未実施のため数字はこれから調査する予定である。第三次環境基本計画の 2016 年度の状況については以上である。

つづいて、3 ページ目をご覧ください。平成 28 年度の区施設におけるエネルギー使用量等についてである。足立区公共施設地球温暖化対策推進実行計画の目標に対する実績がまとまったので報告する。

平成 28 年度の電気使用量は、平成 22 年度比▲15%目標に対し、▲13.7%であった。都市ガス使用量は、▲15%の目標に対し、▲17.1%で、ごみ量は▲5%の目標に対し、▲8%で、都市ガス使用量・ごみ量ともに目標を達成した。経年比較は、平成 22 年度を 100 としたグラフである。

4 ページ目をご覧ください。(1)の電気使用量は、平成 23 年度に震災直後の節電の徹底と、施設の休止等があり大きく減少したが、平成 24、25 年と増加し、平成 26 年度からは減少傾向にある。平成 28 年度は、前年度比▲2.6%、平成 22 年度比▲13.7%となったが目標には届かなかった。

(2)の都市ガス使用量は、平成 23 年度に大きく減少し、平成 26 年度からも減少傾向にある。平成 28 年度は、前年度比▲1.1%、平成 22 年度比▲17.1%となり目標を達成した。

(3)のごみ量は、平成 22 年度から 25 年度まで横ばいで推移してきたが、平成 26 年度から 3 年連続して減少した。平成 28 年度は、前年度比▲4%、平成 22 年度比▲8%となり目標を達成した。

4 の新計画に基づく削減目標について説明する。第三次足立区環境基本計画を踏まえて実行計画を改定した。この実行計画改定については、前回の環境審議会でも報告させていただいた。新たな実行計画では、CO2 排出量とごみ量の削減目標を定め、電気・ガスのエネルギー使用量は目安で定めている。CO2 排出量の削減目標は、基準年 2013 年度 37,040 トンに対して、

2024年度までに▲25%、27,778 トンを目標とし、パリ協定と合わせて2030年度までに▲35%、24,076 トンの長期目標を定めた。

ごみ量は、2013年度2,649 トンに対して2024年度までに▲15%の2,251 トンの目標定めた。

CO2のみでは分かりにくいということもあり、電気は▲22%、都市ガスは▲35%をエネルギー使用量の削減目安とした。

次に5ページをご覧ください。

報告事項3、平成29年度環境基金助成交付団体の決定について報告する。

4月から募集を開始し、5月31日に締め切ったところ、5団体から申請があった。7月7日に開催した環境基金審査会において、申請のあった5団体のプレゼンテーションを踏まえ、9人の審査会委員が10項目を評価し、得点率70%以上の1団体を助成金交付団体に決定した。特定非営利活動法人エコロジー夢企画の、綾瀬川のアユ遡上調査とエコ夢探検隊で、得点率71.8%で交付予定額100万円を上限として、活動終了後に提出される実績報告書を審査の上、交付予定額の範囲内で活動に要した金額を助成する。

そのほかの4団体について、概要を説明する

大学A、活動名：破棄食品ゼロを目指した食品3Dプリンタの開発

見た目の悪い介護食を、見た目をよくして、さらに食感をよくすることで、食べ残しが少なくなり、食品廃棄ゼロになるので環境に優しいのではという提案であったが、食べ残しが介護食の見た目の影響であるということの理論づけと、環境の分野とは離れているということで点数が低かった。

大学B、活動名：地震により破損したRC柱の補修による復旧効果について

地震で損傷したコンクリート柱を囲って材料を吹き付けて補修することで、一時的にその建物が使用でき、災害がれきを減らそうという内容であったが、一時的に使用できるようにしても、建物そのものが使えるようになるわけではなく、最終的には災害がれきとして出すことになる。逆に、災害が起きる前の危ない柱に施すことができれば良いのではという意見

	<p>もあったが、環境分野というよりも災害対策の分野ではないかという意見が多く点数が伸びなかった。</p> <p>続いて、6ページをご覧いただきたい。</p> <p>事業者C、活動名：骨材分級設備導入による環境負荷の低減及び循環型工場の推進</p> <p>生コンを現場に運ぶときは、多めに運んで残った生コンは廃棄していたが、骨材分級設備を導入することで、戻ってきた生コンを砂利と砂に分けて再利用できるようにするという内容であったが、設備を導入することで工場そのものは良くなるが、地域への波及効果があまりみられないということで点数が伸びなかった。</p> <p>事業者D、活動名：創エネと省エネを組み合わせた高環境のものづくりの実現</p> <p>工場の屋根に断熱塗料の塗布、太陽光発電設備の設置、工場内の照明のLED化をすることで、工場のエネルギー使用量を減らすという内容であったが、工場自体は高環境の工場になるが、先ほどと同様で、地域への波及効果がみられないということで点数が低かった。</p> <p>7ページは、評価項目と点数が記載されているので、ご覧いただきたい。事務局からは以上である。</p>
会 長	3つの報告事項について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。
委 員	2ページの5-3環境保全活動の拡大に関連して、エコ活動ネットワーク足立（EANA）など、環境に関心のある方を集約しながらその良さを行政に生かしていく取組みを、もっと高める工夫の余地があると思う。資料では、未実施となっているが、ぜひ基本構想の協創の理念にあったしくみをつくっていただきたい。
事務局	団体の数が多いうえに、取り組む内容が団体によって異なるため、カテゴリーで分けるのか、地域ごとまとめるのか、考えがまとまっていない。いかに活性化するかについて、年度内にはご報告したい。
委 員	区民がどのように行動するか、各分野の内容がわかりにくい。ホームページで紹介されているが、行動編の中身が見えないので、子どもの段階か

	らわかるような工夫が必要だと思う。SNS 等でのチェックリストのようなものを、表に出るかたちにしてもらいたい。
事務局	行動編の活用法は検討中である。パンフレットに一部引用するなど、拡大していく。
委員	環境基金助成には、子どもを対象とした応募はなかったのか。学校に周知したのか。
事務局	学校には周知していない。応募があったのは5団体である。
会長	学びと行動のしくみについて検討していただきたい。環境基金助成の周知を広げていただきたい。
委員	事業系の廃棄物処理について、区が収集するのは今年の10月から45リットル2袋までとなる。ごみや資源を持ち込みができるような、中小企業向けの対策はあるか。中小企業の実態を調べることで、環境への対策はできるのではないか。
事務局	事業系のごみは事業者の自己責任という考え方がある。清掃工場への持込はでき、区では事業者台帳を整理しているが、資源化についての支援については確かに抜けている。検討していきたい。
委員	対策を講じられるまで暫定的な対応は区でできるのか。
事務局	西部地域の事業系のごみの調査をした結果、平均排出量45リットル2袋で足りる。トラブルがないよう、現場では柔軟に対応していきたい。
委員	竹ノ塚・花畑地域では大学の建設に先駆けて、樹木があった場所にマンションやアパートが建ち、感覚的に樹木が減っている。開発が進む中で、どのような施策を講じているのか。
事務局	計画に記載のとおり、施策を講じている。詳細は関係部署に確認する。
委員	生物多様性への理解と取組みの推進について、実績値の内訳はなにか。



事務局	野鳥モニターの人数である。今後、モデル地区を決めて区民参加を拡大していく。
委員	地域の特色に合わせた活動をしてもらいたい。環境問題にどのようにつなげていくのか、ターゲットとなる年齢層など具体的に計画をしてもらいたい。
事務局	対象は子どもとする予定である。地域を調査したのち、活動につなげていきたい。
会長	区民の意識啓発につながるようなしくみを考えてもらいたい。
委員	区施設のごみの排出量の中には学校給食も含まれているのか。
事務局	学校のごみは、区施設のごみ量に含まれる。
委員	地域で自主的に美化活動している団体とはなにか。
事務局	区の清掃美化活動実施団体に登録している団体である。
委員	省エネルギーを心がけている人の割合が減っているのが残念である。PRしていきたい。
会長	行動指針を活用して、PR できればよいと思う。
委員	外来種対策や保全について教えてほしい。
事務局	外来種は他への影響がなければ、対策は特に行わない。
委員	環境学習の推進と人材育成について、環境ゼミナールが土曜の昼間に開催されているので参加しやすくなった。再生館については、もっと子供向けに活用してもらいたい。
委員	EANAの会合を開催してもらいたい。

会 長	EANAの登録団体数はどのくらいか。
事務局	84 団体である。
会 長	<p>行政が交流や発表の場をつくるといいのではないか。</p> <p>各委員から意見をいただいた。具体的な事業の進め方等、参考になる意見があった。環境基本計画の施策の実施を含めて取組みをお願いしたい。</p> <p>区議会選出の委員を除く委員は、任期が満了となる。これまで審議会の運営にご協力いただき、感謝している。</p> <p>以上で、平成 29 年度第 2 回環境審議会を終了する。</p>